

# 富所潤の FISHIN'GRAPH

フィッシング'グラフ～見て感じて楽しむ沖釣りライフ  
**⑪メタルスッテ・パラダイスin 敦賀**

◎隔号連載・毎月15日発売号掲載

日本海の夜イカ船でルアータックルに鉛ヅノやジグ、餌木などを組み合わせた道具でケンサキイカを狙い始めたのは今から20年以上前。アオリイカのティップランに追従するように広まったこの釣りは、ここ10年で急速に拡大、船の夜イカ釣りをガラリと変えた。「メタルスッテゲーム」

関東周辺でも茨城、沼津で主役となりつつあるイカゲームを、本場・福井県敦賀で、パイオニアの1人、イカ先生・富所潤さんが満喫する。



怖いも大切だけど「止めること」はもっと大切、と富所さん。セフィアリミテッドは一瞬で静止する



アタリを見抜いて合わせていく。反応したケンサキイカは何回もアタックしてくるから面白い



▼関西、東海、そして関東など、各地からファンが集まる

友人が大型をキャッチ!



◀タナや誘い方といった情報を共有することでお互いに釣果をのばして、ますます楽しくなる。それがメタルスッテゲーム



若狭湾をはじめ、日本海と東海では夜のイカ夜釣りの風景としてすっかり定着したメタルスッテゲーム。その第一人者がイカ先生



▲敦賀で周年イカ釣り船を出している人気の大型船、豊漁丸の遊津治一船長と



◎とみどころ じゅん-シマノインストラクター。ティップエギング、メタルスッテゲーム、ライトヤリイカのほかにチウオなど、船のライトゲーム、「楽しむ釣り」の最先端に行く。

「夏から秋はマイカ(ケンサキイカ)、その後はタルイカ(ソデイカ)、冬はヤリ、春からムギ、スルメ。で、またマイカやね」  
 福井県敦賀・色浜の豊漁丸は年間を通して夜のイカ釣りへ出船する。遊津治一船長の人柄と、スタジアムのように明るいLED照明と、関東でも見ることのない大型船で人気を集め、ケン

サキシーズンは連日満席だ。驚くべきは、これらのイカ釣りすべてがメタルスッテで楽しめること。今やメタルスッテは夜イカ釣りにおけるインベーション＝新機軸であり、当地はそのパラダイスなのだ。



▲色浜の船着き場。写真右側が豊漁丸の駐車場、宿、船着き場

イカ先生に聞くメタルスッテのコツと釣れないときの対処法

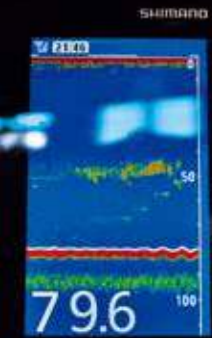
18時に色浜を離れた豊漁丸は40分ほどでポイントへ到着し、パラアンカーを下ろす。水深は80メートル弱、船は0.4ノットでゆっくりと流れていく。

富所潤さんはノリノリスッテII15号とドロップパーにフワフワスッテIIの組み合わせ。水深と船の流れから、20号、または30号でもいいのでは? と思うが、ラインは垂直に立ち、底近くで早くも1杯目を掛けて見せた。「見逃しがちかもしれませんが、メタルスッテはラインがとても重要です。飛躍的に強くなったセフィア8+の0.4号は、この釣りに最適です」

より細く、強いラインであるほど、スッテの重さ、沈む速度、動き、シルエットなど、選択肢は増える。逆にラインが太いほど、スッテを重くしなくてはならず、選択肢は狭くなる。しばらく底周辺で乗っていたイカが、すっかり暗くなると浮いてくる。

「何メートルで乗りましたか?」「ほとんどベタ底でした」「今は50でした!」  
 そんな会話が船上で繰り返され、船長も積極的にお客さんの乗りタナを聞いてアナウンスする。「もし、自分だけ釣れないときは、まずタナを疑ってください。今は多くの

イカは様々なシグナルを送ってくる。ティップの表情が豊かなロッドほど、この釣りは面白い



◀水深80メートル前後。どの深さでイカが反応してきたのか? 「タナ」はとても重要だ

▼枝スのドロップパーによく乗る時間もあるれば、メタルばかりのこともある。その見極めも大切だ



◀ティップは高強度なカーボンソリッドティップのタフテック®に、トラブルを軽減、軽量なXガイドを採用。全長1.96mだが、ティップ、グリップで補強するため仕様寸法は123.6~127.6cmに収まる

【セフィアリミテッド メタルスツテ】最新のシマノテクノロジを余すところなく投入、軽さ、細さ、感度、パワー、すべてにおいて新次元へ到達した最高峰のメタルスツテロッド。持った瞬間、仕掛けを動かした瞬間にその操作性と感度に驚く。定価は7万8500~7万9500円

【バルケッタFカスタム】上位機種バルケッタプレミアムからHAGANE ボディやXプロテクトなどを受け継ぎつつ30グラム以上軽量化したフォールレバー搭載の最軽量モデル。バックライト液晶カウンターを搭載（写真は150DH）。価格は3万1500円

◀適合スツテ5~20号のB65 ML-S、8~25号のB65M-S、10~30号のB65MH-Sの3アイテム。硬さは異なるが、いずれもアクションとフィーリング=軽快&敏感で操作性がよく、十分な強度を持っている=共通している

◀実釣での動作を考慮、すでにアングラーの間で絶賞されているフロントトリガー。グリップの形状も究極の操作性にこだわって作り込まれておりストレスを感じない

▲脇挟みでホールドしやすく、シェイクなどではヒジにフィットする専用設計のカーボンモノコックグリップ

【セフィア フワフワスツテII】高浮力ボディを採用。カンナを持ち上げた姿勢を維持する実績抜群のドロップバー。S (75mm)、M (85mm)、L (100mm) の3サイズ、全10色、ノーマルとラトル入りがある。価格は1200~1300円

【セフィア コロコロスツテ】素早く沈むため幅広いタナを探るパイロットスツテとしても活躍する。8、10、12、15、20、25号、全14色。価格は1050~1120円

【セフィア ノリノリスツテII】スライドアクションとスロフォールが特徴。メインスツテとして、じっくり狙うときに抜群の威力を発揮するメタルスツテ。10、12、15、20、25、30号、全10色。価格は1050~1120円

【セフィア スツテアシストリーダー】ショート、ロング、パラソル、ダブルエダス、オモリグタイブの計5種。定価は395~450円

人が水深50メートルでアタつていますから、その上下3メートルほどを集めて狙います」  
アクションは基本的にハーフまたはワンピッチジャーク2~3回につきポーズ（止め）。狙ったタナを通過したときや投入時は、フォールで誘っていく。イカがスツテにさされると、セフィアリミテッド、メタルスツテB65ML-Sのティップが動く。富所さんほんのりな動きにも合わせ、ときに空振りし、シェイクして、結局、反応してきたイカはほとんど掛けてしまふ。

「アタリを見抜いたり、掛けるのも大切ですが、忘れがちなのがしつかり止めること。自分だけアタリがないと悩むときは、ぜひ、止めてください」  
富所さんの「止め」は10~20秒か、それ以上。これは盲点かもしれない。  
多釣から楽釣への転換

メタルスツテゲームはタナはもちろせん、誘い方やスツテの種類や色など、乗船者で情報を共有して楽しむシーンが多く見られる。これは、この釣りが「メタル」と呼ばれる以前から富所さんご自身が、忘れがちなのがしつかり止めること。自分だけアタリがないと悩むときは、ぜひ、止めてください」  
富所さんの「止め」は10~20秒か、それ以上。これは盲点かもしれない。

も空振り、アツくなり、時間をかけて掛ける。それは決して効率的ではないが、だれもが夢中になる。  
当然、道具に求められる性能や考え方も変化。その最先端タックルは、手にした瞬間から軽く、実釣でストレスなく動かすことができ、イカの動きを目に、手に余すところなく伝えてくれる。つまり「楽しい」のだ。  
おかげさな話ではなく、夜イカ釣りは100杯を競う時代から、1杯ずつ感動できる時代へ変わるうとしている。

▲強烈な引きにマダイが食いついたと思いきや、1.5キロほどのタリイカ（ソデイカ）。秋~冬はさらに大きいサイズがメタルスツテで狙える

乗ってきたタナを覚えておき次投ではフォールで狙う

▲当日のアベレージは胴長20~25センチ。関東では良型のマルイカといったところ

落とし込み狙いではフォールレバーも活用する

▲潮が緩かった当日、アシストリーダーはショートタイプが有効だった

スツテの沈降が止められたらアタリ。その場で誘い、掛けにくい

胴長40センチ級をキャッチ。当地では大きなケンサキイカを「ダイケン」、中型を「チュウケン」、マルイカサイズの小型を「ショウケン」と呼ぶ